

熊本市の若者のファッション行動； 東京のストリートファッションとの比較

孫 珠熙

Fashion behavior of young people in Kumamoto City ; Comparison with street fashions in Tokyo

Ju-hee SOHN

Abstract

In terms of street fashion, stylish young people in Tokyo use more accessories (such as belts, necklaces, and hats/caps) than those in Kumamoto to coordinate with their clothing, while those in Kumamoto tend to use a fashion technique called “the layered look” or combinations of independent items (such as a blouse and a shirt) more often than those in Tokyo.

Factor analysis of a questionnaire on the secret of how to look fashionable extracted four factors: make-up and physique, sense of luxury and trends, love and money, and overall atmosphere. The results also showed that fashion elements that enhance one's appearance are accessories, hairstyle, make-up, physique, and color coordination.

キーワード：熊本，ファッション行動，おしゃれな若者，東京のストリートファッション，商品企画

keywords：Kumamoto City, Fashion behavior, stylish young people, street fashions in Tokyo, Merchandising

1. はじめに

熊本市は2012年4月、国内で20番目の政令都市になった。九州地域全体としては福岡市・北九州市に次ぐ3番目の都市で、日本三名城の一つである熊本城を有し、年平均気温は概ね16℃前後である。主なファッションストリートには上通（上通並木坂，オークス通，上之裏通），下通，シャワー通などがある¹⁾。百貨店は鶴屋百貨店，熊本県民百貨店がある。これまでの熊本のファッションに関する報告としては，熊本日日新聞²⁾が熊本地域の新聞記事として，熊本市の大学生のファッションを紹介したものなどがあるが，研究論文としてはあまりみられない。本研究はまず，熊本市街で見かけたおしゃれに見える若者に写真撮影をさせてもらい，さらに，おしゃれに着こなすためのファッション行動(おしゃれに見える秘訣)について，質問調査を行った。また，東京都のストリートファッション³⁾と比較し，熊本市のストリートファッション行動を明らかにすることを目的とする。熊本市を取り上げた理由は筆者が当時熊本市の学校法人尚絅学園（江口吾郎理事長）に勤務していたことで，熊本市を調査対象にした。

安くてファッショントレンドなグローバル SPA (Speciality Store retailer of Private label apparel：製造小売業) 商品ブランド「H&M」銀座店⁴⁾は，2008年9月東京にオープンした。日本に進出する外資系 SPA 企業は GAP (アメリカから1994年)，ZARA (Inditex Group, 全世界売上高1兆3700億円，スペインから1999年)，H&M (ヘネス & マウリッツ，1947年に設立，スウェーデンから2008年)，フォーエバー21 (全世界460店舗で売上高は2000億円，アメリカから2009年) が代表的ブランドである。「H&M」の世界売上高は1兆5,700億円⁵⁾である。今や世界30カ国で1600店舗を持つほど，広く受け入れられてきた。

その女性服商品はレイヤード，リミックスや可愛い感覚に象徴されている。パリ，ロンドンやニューヨークで，毎年のように著名デザイナーやセレブとのコラボなど派手なプロモーションをし，安さで上陸した「H&M；スウェーデンのブランド商品」ストアは，どこもモダンな量販店のようである。また，「ZARA」(スペインのブランド商品)，「GAP」(アメリカのブランド商品) など1万円でトータルコーディネートできる海外の大手グローバル SPA (製

造小売業)は、男女ともに若者のファッション関心度が高まる今日、その多様なサイズ展開も魅力で、これまで若い感性には合うサイズがなかった9ARサイズ(日本JISの20代女子の標準体型)以外の体型の人にも受け入れられている。これらのブランド商品は、熊本市ではなかなか手に入らないのが現状で、本研究を行った以降2010年9月ZARAが熊本市にオープンした。今後は地域を中心としたArea Marketの必要性があり、東京のおしゃれに見えた女性と熊本のおしゃれに見えた女性に地域の差があるかを明らかにした。また、熊本市でおしゃれに見えた女性に、おしゃれに見える秘訣に関する質問調査を行い、おしゃれの構造を明らかにした。これらの研究はグローバルな視点から熊本市の若者のファッションにおけるArea Marketにおいて、今後のマーチャンダイジング(Merchandising:商品企画)の基礎資料になるとと思われる。

2. 研究方法

2・1 調査方法

熊本市のストリートファッションの調査は、女子大生から見ておしゃれに見えた人を対象に、写真撮影と同時に質問紙調査をした。熊本のストリートファッション分析に用いた標本数は計46名である。うち質問紙調査に回答してくれた人は女子27名、男子11名で計38名である。

東京のストリートファッション調査は、インターネットのストリートファッションのサイトを通じて毎週みられるので、原宿、渋谷、表参道、代官山、銀座の各地域ごとに12人で計60名の写真をサンプルとして用いた。ストリートファッションに用いた全標本数は熊本46名、東京60名で合計106名の写真を分析に用いた。調査時期は東京と熊本ともに2008年6月に行った。

ストリートファッション調査は撮影した写真をA4サイズ用紙に印刷し、衣服や雑貨を含めたトータルコーディネートアイテムを雑貨9項目、衣服6項目で計15項目に分類して121名の撮影写真を分析に用いた。

質問紙調査内容は①おしゃれに見える秘訣に関して14項目②興味を持っているファッションイメージ③異性を選ぶ決め手④モチベーションを高める為にすること⑤好きな色と最近の関心⑥個人特性(フェー

ス項目)6つであった。

2・2 分析方法

東京都と熊本市のストリートファッションの写真の分析には、写真ごとに①雑貨類を9項目、②衣服のアイテムを6項目に分類し、「スカーフ」や「ネックレス」「帽子」などの項目において、「している」を1、「していない」を0に置き換え0・1データに分類した。

データの集計・分析には、単純集計やクロス集計を用いた平均値の差の検定、カイ2乗検定、相関分析をもとにそれぞれの特徴と差異を明らかにした。次におしゃれに見える秘訣14項目について意識の構造および差異を明らかにするために5段階評定尺度(1.そう思わない、2.あまりそう思わない、3.どちらでもない、4.ややそう思う、5.そう思う)に対してそれぞれ1~5点を与え、因子分析を行った。統計処理にはSPSS16.0を用いた。

3. 結果および考察

3・1 東京・熊本のストリートファッションに見る雑貨アイテム

東京都と熊本市の男女の雑貨(スカーフ、ベルト、ネックレス、帽子など)アイテムについての装飾傾向の比較を表1に示す。

女子においては、雑貨の項目で評定評価値が東京の方が熊本より高く、差異が見られた項目は、「ベルトがある(東京25.5%>熊本7.1%)」「ネックレスがある(東京51.0%>熊本35.7%)」「帽子がある(東京13.7%>熊本0%)」である。「バックが大きい」は東京と熊本は55%前後で変わらなかった。

男子においては、雑貨項目で評定平均値が東京の方が熊本より高く、差異が見られた項目は、「バックが大きい(東京77.8%>熊本10.5%)」「メガネがある(東京55.6%>熊本31.6%)」である。熊本は東京より「ベルトがある(熊本52.6%>東京22.2%)」が多く、「ネックレスがある(共に50%前後)」「帽子がある(共に24%前後)」で変わらなかった。

すなわち、女子において、東京のストリートファッションのおしゃれな人は熊本より、ベルト(26%>7%)・ネックレス(51%>36%)・帽子(13%>0%)などの雑貨によるコーディネートが多くみら

表1 ストリートファッションで見える雑貨*性別*地域 クロス表

雑 貨	性別/地域					
	女子東京 (N=51)	女子熊本 (N=15)	男子東京 (N=9)	男子熊本 (N=31)	合計 (N=106)	
靴のヒルが高い	度数	29	8	0	0	37
	性別地域内での割合(%)	56.9	57.1	0	0	
スカーフある	度数	1	0	0	0	1
	性別地域内での割合(%)	2.0	0	0	0	
ベルトある	度数	13	1	2	10	26
	性別地域内での割合(%)	25.5	7.1	22.2	52.6	
ネックレスある	度数	26	5	5	9	45
	性別地域内での割合(%)	51.0	35.7	55.6	47.4	
バック大きい	度数	28	8	7	2	45
	性別地域内での割合(%)	54.9	57.1	77.8	10.5	
帽子ある	度数	7	0	2	5	14
	性別地域内での割合(%)	13.7	0	22.2	26.3	
メガネある	度数	6	0	5	6	17
	性別地域内での割合(%)	11.8	0	55.6	31.6	
ヘアスタイルロング	度数	33	7	1	0	41
	性別地域内での割合(%)	64.7	50.0	11.1	0	
ひざ上のミニ	度数	22	10	0	0	32
	性別地域内での割合(%)	43.1	71.4	0	0	
合計	度数：応答者	51	14	9	19	93

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算，N=全標本数

れた。

ネックレスをしている男子は東京（57%）熊本（47%）ともに50%前後で多く、次いで帽子を被っている人は東京（22%）熊本（26%）ともに20%以上多くみられ、男子のアクセサリとしてネックレスが地域を問わず定着していることが明らかになった。大きいバックについては東京の男女と熊本の女子に多く現れ、ファッショントレンドの傾向と同じであることがわかった。

3・2 東京・熊本のストリートファッションに見る衣服アイテム

東京都と熊本市の男女の衣服アイテム（ワンピース、ブラウス・シャツ、スカート、ベストなど）の比較を表2に示す。

女子においては、衣服の項目で評定評価値が熊本の方が東京より高く、20%以上差異が見られた項目は、「重ね着である（熊本67.7%>東京47.1%）」次いで「スカートを着用（熊本66.7%>東京49%）」である。「ワンピース着用」は東京と熊本ともに45%前後で変わらなかった。

本報の分類では定番アイテムとして着用されている、ブラウスより長くワンピースよりは短い丈の

「チューニック」も「ワンピース」類に含めた。また、8分丈レース付きレギンス、着圧レギンスは「パンツ」類に分類してある。

男子においては、衣服項目で評定平均値が東京の方が熊本より高く、50%以上の差異が見られた項目は、「重ね着をしている（東京88.9%>熊本32.3%）」「ベストを着用している（東京22.2%>熊本3.2%）」であった。

すなわち、女子において、熊本のストリートファッションのおしゃれな人は東京より、重ね着（熊本67%>東京47%）・スカート（熊本67%>東京50%）によるコーディネートが多くみられた。また、東京・熊本ともにワンピースが45%、パンツを40%着用していることがわかった。

ワンピースやレギンスのようなパンツは今年度のキーアイテムで、ファッショントレンドの傾向は地域による差異がないことがわかった。特に男子の重ね着は東京（89%）が熊本（32%）よりも圧倒的に多く、表1で男子のベルト着用が熊本に多かったのは、東京では重ね着の着用でベルトがみえなかったからかも知れない。

表2 ストリートファッションで見る衣服*性別*地域 クロス表

衣 服	性別/地域					
	女子東京 (N=51)	女子熊本 (N=15)	男子東京 (N=9)	男子熊本 (N=31)	合計 (N=106)	
重ね着	度数	24	10	8	10	52
	性別地域内での割合(%)	47.1	66.7	88.9	32.3	
ワンピース着用	度数	22	7	0	0	29
	性別地域内での割合(%)	43.1	46.7	0	0	
ブラウスシャツ	度数	3	2	2	5	12
	性別地域内での割合(%)	5.9	13.3	22.2	16.1	
スカート	度数	25	10	0	0	35
	性別地域内での割合(%)	49.0	66.7	0	0	
パンツ	度数	20	6	9	31	66
	性別地域内での割合(%)	39.2	40.0	100.0	100.0	
ベスト着用する	度数	3	2	2	1	8
	性別地域内での割合(%)	5.9	13.3	22.2	3.2	
合計	度数：応答者	51	15	9	31	106

3・3 東京・熊本のストリートファッションに見る雑貨と衣服アイテムの相関

東京と熊本の女子のストリートファッション傾向を調べるために、東京・熊本のストリートファッションに見る雑貨アイテムと衣服アイテムの間で各アイテム項目間の相関分析を行った結果、相関がみられた項目のみを表3に示す。雑貨と衣服アイテムとの間で「ベルト」「スカート着用」の2項目が危険率5%で有意な相関が認められた。「ネックレス」は「パンツ」「ベスト着用」項目に危険率5%で有意な相関が認められた。衣服アイテム項目「スカート」「パンツ」は相関係数0.8前後(危険率1%)と相関が高く、「ワンピース」「パンツ」2項目は危険率1%で有意な相関が認められた。これらの結果から、膝上のミニ丈のスカートやワンピースに、レギンスのパンツやベルト着用が6月の代表的なス

タイルとして着用されていたことがわかった。

3・4 熊本のおしゃれな人に見える秘訣について

熊本のストリートファッション写真撮影をした人を対象に、ファッション意識調査を行った結果を図1に示す。おしゃれな人に見える秘訣の14項目で評定平均値が高く、「全くそうだ」と男女ともに最も肯定しているのは「体型」「全般的な雰囲気」「ヘアスタイル」で、特に女子は「お化粧品」「ネイル」「アクセサリー」「カラーコーディネート」と多方面への関心を示した。「お化粧品」や「ネイル」といった女子のみが対象となる項目を除くと、おしゃれに見える秘訣は男女ともにあまり差異は見られないことがわかった。

次にデータ間の類似性を最もうまく表すように「おしゃれな人に見える秘訣」の14項目項目の座標

表3 雑貨と衣服アイテムの相関分析(東京と熊本のストリートファッション) (女子N=66)
相関係数

	ベルトある	ネックレスある	ひざ上のミニ	重ね着	ワンピース着用	ブラウスシャツ	スカート	パンツ	ベスト着用する
ベルトある	1.000	.032	.016	-.090	.063	-.008	.266*	-.191	-.008
ネックレスある	.032	1.000	-.002	-.180	.207	-.155	.095	-.262*	-.269*
ひざ上のミニ	.016	-.002	1.000	-.272*	.241	-.049	.427**	-.410**	-.278*
重ね着	-.090	-.180	-.272*	1.000	-.118	.049	-.063	.162	.278*
ワンピース着用	.063	.207	.241	-.118	1.000	-.253*	.466**	-.526**	-.023
ブラウスシャツ	-.008	-.155	-.049	.049	-.253*	1.000	-.075	.121	.134
スカート	.266*	.095	.427**	-.063	.466**	-.075	1.000	-.795**	-.075
パンツ	-.191	-.262*	-.410**	.162	-.526**	.121	-.795**	1.000	.121
ベスト着用する	-.008	-.269*	-.278*	.278*	-.023	.134	-.075	.121	1.000

*. 相関係数は5%水準で有意(両側) p<0.05

** . 相関係数は1%水準で有意(両側) p<0.01

熊本市の若者のファッション行動；

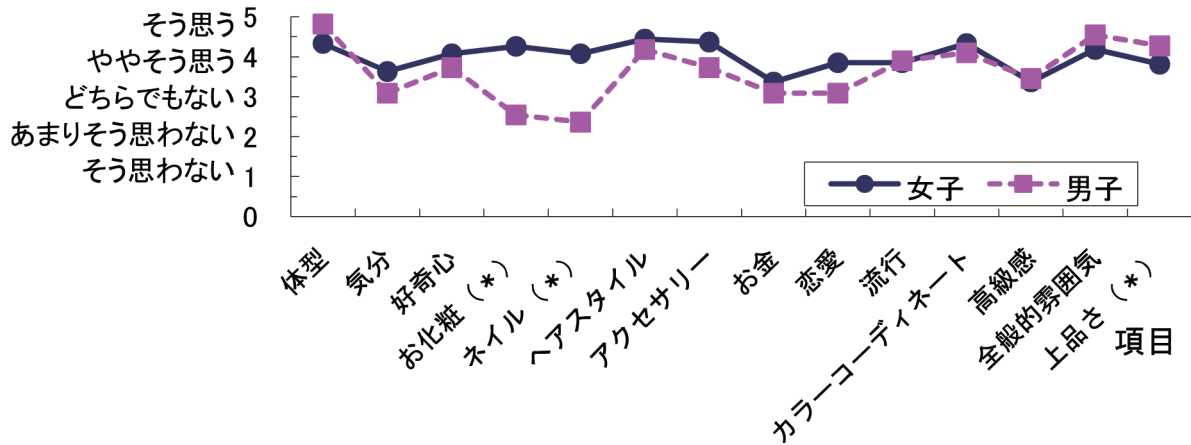


図1 おしゃれな人に見える秘訣はどこにあると思いますか

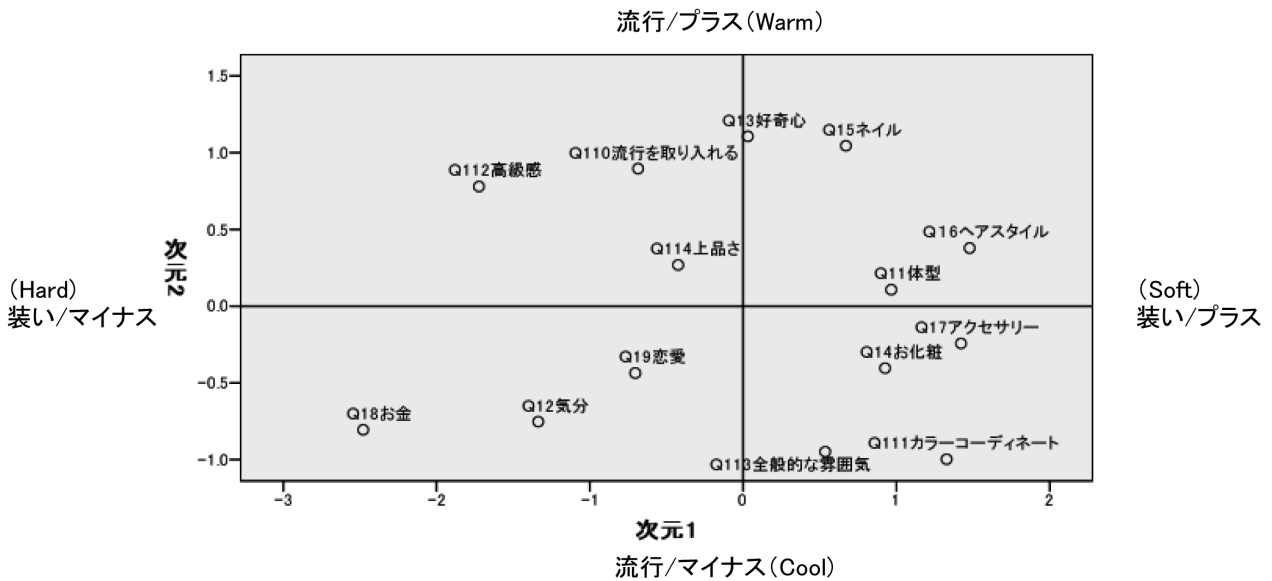


図2 おしゃれに見える秘訣14項目の距離モデル

を2次元平面上に描いてみた(図2)。女子のみを対象に多次元尺度法による距離(類似)のデータから、もとの座標を求めた。横軸の右は装いが強くソフトである。左は装いに弱いのでハードと名付けた。縦軸の上は流行性が強く、ワーム・下は流行性が弱く、クールと名付けた。「装いをする秘訣」で類似した項目は14項目のうち「ヘアスタイル」「体型」「アクセサリ」「お化粧品」であった。つまり「ヘアスタイル」「体型」「アクセサリ」「お化粧品」がおしゃれに大きく影響すると思われる。一方、「お金」や「高級感」は装いにマイナスとなり、高価で高級感のある衣服だからおしゃれに影響するとはいえない。つまり安い衣服で高級感はなくとも、「ヘアスタイル」「体型」「アクセサリ」「お化粧品」により、おしゃれに見えることが客観的に証明できた。

3・5 おしゃれな人に見える秘訣に対する意識の構造

熊本の若者において、おしゃれな人に見える秘訣に対する意識の構造(表4)を明らかにするために、14項目を変数に選び、熊本のおしゃれに見えた女子のうち質問項目に答えてもらった27名を観測変数とした。固有値の変化は3.9, 2.4, 1.8, 1.2であり、4因子構造が妥当であると考えられた。プロマックス回転後の最終的な因子パターンと因子間の相関を表4に示す。なお、回転後の4因子で、14項目の全分散を説明する割合は66.9%であった。

第1因子は5項目で構成されており、「アクセサリ」「ヘアスタイル」「お化粧品」「カラーコーディネート」「体型」の項目に高い負荷量を示していた。そこで『お化粧品・体型』因子と命名した。第2因子は5項目で構成されており、「高級感」「上品さ」

表4 「おしゃれに見える秘訣」項目の因子分析

	I	II	III	IV	累積寄与率 (%)	共通性
アクセサリ	0.852	-0.114	0.155	0.096	28.0	0.838
ヘアスタイル	0.807	0.386	0.191	-0.227	(28.0)	0.770
お化粧	0.768	0.208	0.172	0.211		0.617
カラーコーディネート	0.720	-0.223	0.034	0.272		0.708
体型	0.628	0.208	-0.107	0.236		0.491
高級感	0.076	0.815	0.374	-0.021	17.1	0.708
上品さ	0.285	0.699	0.633	-0.315	(45.4)	0.789
ネイル	0.660	0.668	0.187	-0.140		0.740
流行	0.354	0.663	0.037	0.452		0.753
好奇心	-0.081	0.548	-0.016	-0.103		0.370
恋愛	0.115	0.168	0.862	0.073	13.2	0.751
お金	0.133	0.152	0.705	0.493	(58.3)	0.731
気分	0.092	0.141	0.314	0.824	8.6	0.789
全般的雰囲気	0.151	-0.137	-0.034	0.530	(66.9)	0.309

因子抽出法：主成分分析 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

I お化粧と体型	-	0.229	0.151	0.082	因子間相関
II 高級感と流行		-	0.275	-0.079	
III 恋愛とお金			-	0.013	
IV 全体的な雰囲気				-	

「ネイル」「流行」「好奇心」などイメージの内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで『イメージ・流行』因子と命名した。第3因子は2因子で構成されており、「恋愛」「お金」項目が高い負荷量を示していた。そこで『恋愛・お金』因子と命名した。第4因子は2項目で構成されており、「気分」「雰囲気」項目が高い負荷量を示していた。そこで『気持・雰囲気』因子と命名した。因子仮定後に各因子の妥当性を検討するため Cronbach の α 係数を算出したところ、因子ごとの α 係数は第1因子0.828, 第2因子0.724, 第3因子0.611, 第4因子0.421,

14項目全体の Cronbach の α 係数は0.668であり、いずれにおいても十分な値であった。

3・6 熊本の若者のファッション行動；ファッションイメージ・異性・モチベーション

熊本の若者のファッション行動について、図3の「どんなイメージのファッションに興味をもっていいのか」という問には、熊本の女子は「ナチュラル系」と答えた人が60%以上で多く、熊本の男子は「お兄系」「ナチュラル系」と答えた人が40%で多い。次いで、女子は「お姉系（35%）」「古着系

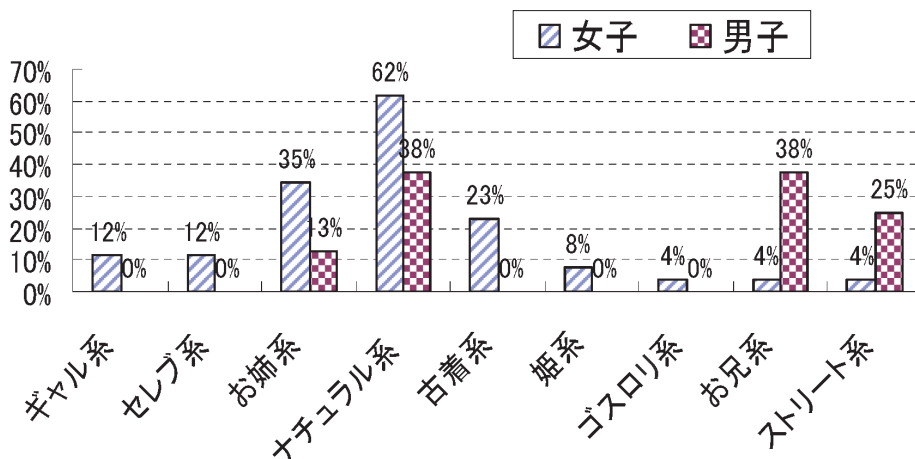


図3 どんなイメージのファッションに興味を持っているか

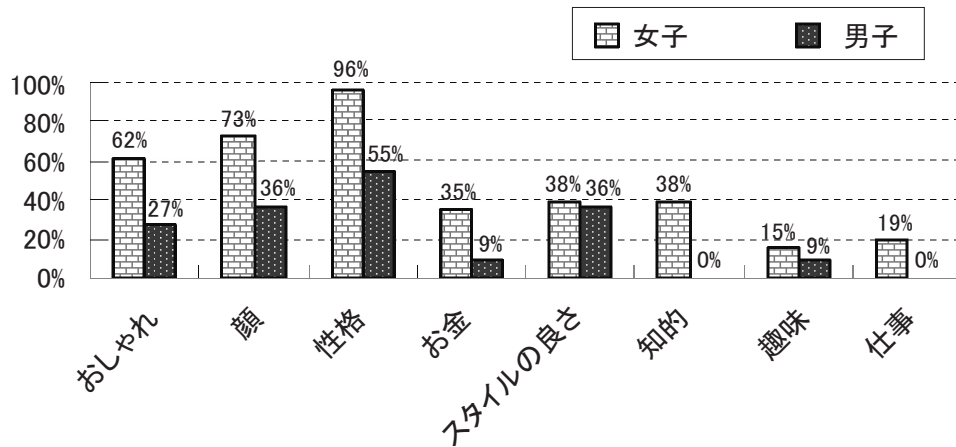


図4 異性を選ぶ一番決め手は何ですか

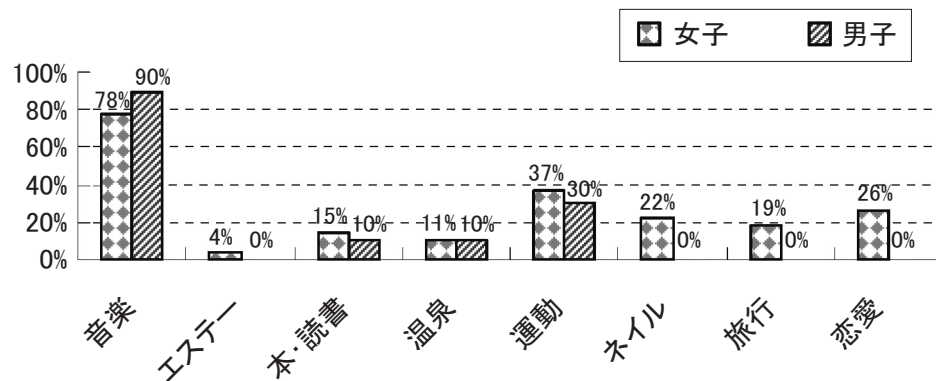


図5 モチベーションを高める為に何をしますか

(23%)」「セレブ系 (12%)」「ギャル系 (12%)」の順であった。「姫系 (8%)」「ゴスロリ系」・「お兄系」・「ストリート系」がそれぞれ4%を示した。「セクシー系」は回答が無かった。男子は「ストリート系 (25%)」「お姉系(13%)」であった。

図4の「異性を選ぶ一番決め手は何ですか」については、熊本の女子の90%以上、男子の50%以上が「性格」と答えている。次いで、女子は「顔 (73%)」「おしゃれ (62%)」「スタイルの良さ」・「知的」がそれぞれ39%、「お金 (35%)」を示した。男子は「顔」・「スタイルの良さ」が36%、「おしゃれ (27%)」順に答えている。

図5の「モチベーションを高める為に何をしますか」は「音楽」と答えた人が熊本の男子の90%、女子の78%で最も多い。次いで、女子は「運動 (37%)」「恋愛 (26%)」「ネイル (22%)」「旅行 (19%)」の順に答えており、男子は「運動 (30%)」「温泉」・「本・読書」がそれぞれ10%と答えている。

3・7 お小遣いと被服費について

一ヶ月のお小遣いの平均額は女子27,778円、男子41,110円で男子が女子より13,000円程度高く、 $p < 0.001$ で有意な差異が見られた。しかし1ヶ月の被服費の平均額については、女子19,778円、男子19,800円で、ほぼ同じ額の消費をしていることがわかった。女子の方が男子よりお小遣いが平均13,000円少ないにもかかわらず、女子はお小遣い額の70%、男子は50%を被服費に使っている傾向がみられた。このことは男子が女子ほどファッションに関心を持っていることが伺える。

3・8 好きな色の傾向と最近の関心

次に「好きな色の好みの傾向」と「最近の関心について順位データ」として1位、2位、3位をそれぞれ調査した。本報では、それぞれ1位として答えた回答のみ報告する。まず、図6の好きな色の傾向の1位について熊本の女子は「赤・黄色・青・

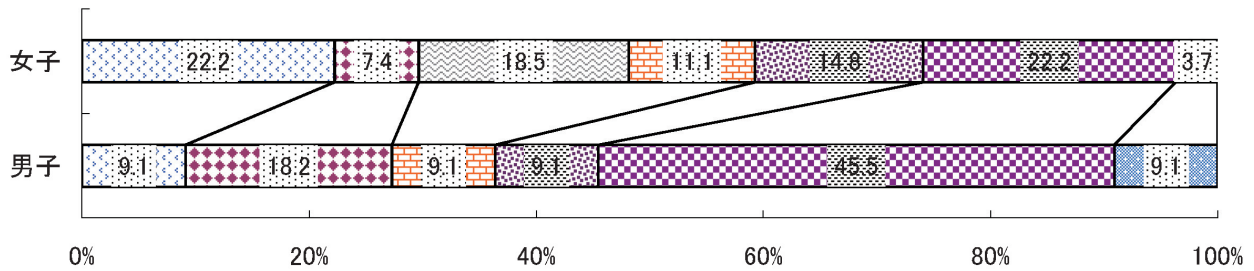


図6 好きな色の傾向は何ですか

緑」「白と黒・原色と無彩色のコントラスト」がそれぞれ22%となっており、次いで「クリーム・ココアブラウン・グレー（19%）」「赤・ホットピンク・紫（15%）」順である。

男子は「白と黒・原色と無彩色のコントラスト」と答えた人が50%近くになっており、女子の2倍ほど多い。次いで「紺・グレー・ベージュ」が18%で、女性の2倍ほど多い。男子は「白と黒・原色と無彩色のコントラスト」や「紺・グレー・ベージュ」を好む人が合わせて70%に近い。しかし、女子はいろんな色を好んでいる傾向がみられた。

次に最近の関心について1位に選んだ各項目に対する割合を図7に示した。熊本の女子は「アルバイト」が23%で多く、次いで「携帯電話（15%）」「美容（12%）」の順に答えている。また「恋愛」「映画」「資格取得」「料理」「ダイエット」にはそれ

ぞれ8%程度の関心を示した。

男子は「ファッション」に興味を示した人が27%で一番多く、次いで「アルバイト」「スポーツ」にそれぞれ18%となっている。熊本の若者の男女はアルバイトに関心を持っている人が20%前後、「恋愛」に関心を持っている人が8%前後で似ている。しかし、男子は0%で女子の方が関心を示す項目は「携帯（女子15%）、美容（女子12%）、料理（女子8%）、ダイエット（女子8%）」、男子の方女子より関心を示す項目は「ファッション（男子27%>女子3.8%）」「スポーツ（男子18%>女子0%）」である。熊本の若者の男子の被服費が月20,000円程度で女子と同額だったことからわかるように、最近の関心として男子はファッションに関心を持っている裏づけになると思われる。

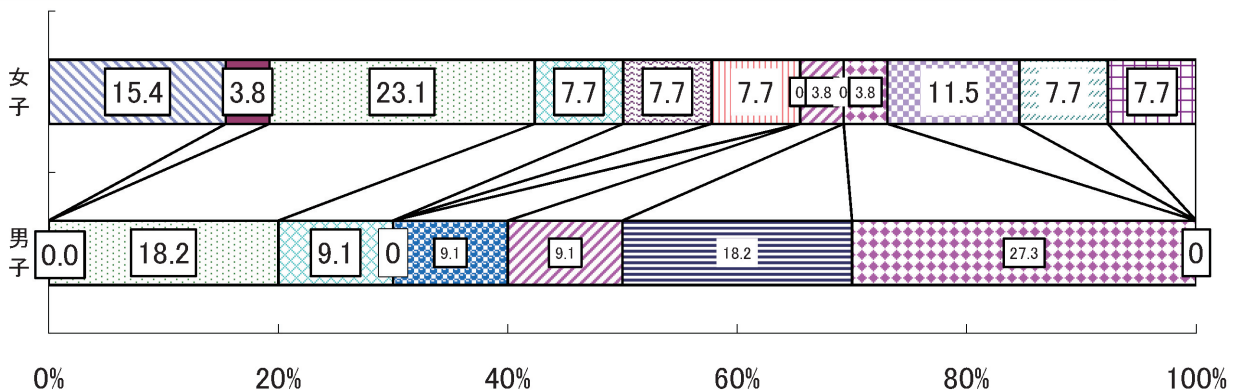
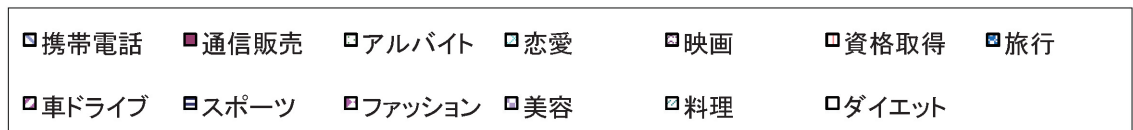


図7 最近の関心は何ですか

4. まとめ

本報では熊本市の若者のストリートファッションについて、東京のストリートファッション（原宿、渋谷、表参道、代官山、銀座）と比較した。標本数は熊本の若者の着写真モデル46名と東京の着写真モデル60名で計106名である。また、熊本の若者のファッション行動を調査するために、38名の着写真モデルに質問紙調査を行った。

(1) ストリートファッションで見ると、東京のおしゃれな若者は、ベルト・ネックレス・帽子などの雑貨を使ったコーディネートが熊本より多く、熊本のおしゃれな若者は東京より、重ね着・ブラウスやシャツによる衣服の単品コーディネートが多かった。

(2) おしゃれに見える秘訣に関する質問項目を因子分析した結果、お化粧品と体型、高級感と流行、恋愛とお金、全体的な雰囲気との4因子が得られた。

(3) また、装いにプラスでおしゃれに影響する項目は、アクセサリ、ヘアスタイル、お化粧品、体型、カラーコーディネートであることが明らかになった。一方、お金や高級感は装いにマイナスとなり、高価で高級感のある衣服がおしゃれに影響するとは言いえない。つまり安い衣服で高級感がなくてもおしゃれにみせられることが客観的に証明できた。

(4) 最近の関心について、熊本の女子は「アルバイト」が23%で多く、次いで「携帯電話（15%）」「美容（12%）」の順に答えている。男子は「ファッション」に興味を示した人が27%となっている。熊本の若者の男女の被服費はともに月2万円程度で、男子もファッションに関心を持っていることの裏付けになると思われる。

以上、熊本市と東京都のストリートファッションの違いは着写真行動で差異がみられたが、原因は首都と地方都市の規模の差、大手百貨店や専門店に入店しているブランドの格差、首都は原宿・渋谷・表参道・代官山・銀座などの商圈エリアが形成しているなどの要因が考えられる。しかし、生活者のニーズにより年配の富裕層のイメージであった銀座がユニクロや海外のファストファッション（ZARA・H&M・Forever21・Abercrombie & Fitch など）ブランドが並び、従来の銀座ストリートイメージも若い感性の雰囲気に変わっている。ストリートファッションは時代の文化を反映している。

本研究の一部は2009年5月（社）日本家政学会第61回全国大会（会場：武庫川女子大学）にて発表（受付番号100179）した。

謝辞

本研究を進めるに当たりまして、ご協力くださいました尚絅大学短期大学部の中村紗織さん・田畑美沙紀さん・吉武春奈さん・上村百合恵さんに深く感謝を申し上げます。またストリートファッション写真撮影や質問紙調査にご協力くださいました方々に深く感謝を申し上げます。

文献

- 1) 熊本市 <http://ja.wikipedia.org/wiki> (2008. 11.1)
- 2) 藤山裕作他；「秋冬ファッションどう着こなす？」熊本日新聞11月1日夕刊5面(2008)
- 3) 東京のストリートファッション <http://www.style-arena.jp> (2008.6)
- 4) 小島健輔；『ファッション販売』FASHION HAN-BAI (2008) 11 P.3-4
- 5) ファッションビジネスの世界；(社)日本衣料管理協会 (2011. 12) p.12-13

(2012年5月21日受付)

(2012年7月18日受理)

